

漢法苞徳塾資料	No. 189
区分	治療論・治則
タイトル	治則の問題に関して
著者	八木素萌
作成日	1991.05.16

◎治則の問題

- a. 緩急の序列と選択の基準
- b. 温法と冷法と清法、その選択の基準
- c. 汗法と下法と和法と吐法、その選択の基準
- d. 補法と瀉法と疎通法、その選択の基準
- e. 理血法と駆瘀血法と破血法の問題
- f. 醒腦開竅法の問題
- g. 回陽固脱法の問題

湯液による治療の場合はこれらに対応する薬方の選択が問題である、然し、鍼灸治療では上記のような治法は如何にして実現するのか？が実践の問題であり、九鍼のような鍼の種類や、燔鍼法と刺絡法と繆刺法と巨刺法などのような、あるいは鍼運用の各種の技法などの選択の問題が、やはり優れて臨床実践の問題であるから、その選択基準の問題も大きな課題であろう。

1. 病を経絡の変動という角度においてのみ把握するので良いのか？は極めて重要であろう。臓腑の変動と病因の表現としての反応が、病症構造をとって現象するのが病の実態である、そして体表に見られる各種の反応が、如何なる部位にあるのかという問題の一環として経絡的反応が存在しているものと言う把握こそが、重要なものである。病の性質や病因や病んでいるものと切り離して「経の変動」を把握しても、どの経脈のどの穴を用いどのような手技手法を施すべきかは導き出せない。従って、今日では「経脈の虚実の変動をのみ捉えれば鍼灸の治療には充分である」という理解は、あまりにも不十分で偏ったものであるので、ほとんど誤謬であると強調しなければならないのである。

という事は、諸反応を陰陽五行的に臓腑の変動と病因の表現として把握しなければならないのだ。此処に漢法的な診断の最重要点がある事を強調すべきである。

- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.